



富山大学ダイバーシティ推進センター

News Letter

Center for Diversity and Inclusion, University of Toyama

TOPICS

- ダイバーシティ・セミナーについて
- 活動報告
- お知らせ
- 男性の育児休業取得者インタビュー
- ダイバーシティ推進センター長ご挨拶

2022.3
第2号

令和3年度ダイバーシティ・セミナー

富山大学は令和2年度にダイバーシティ推進センターを設置し、すべての教職員・学生が自らの能力を發揮し、生き生きと活躍できる多様性を尊重した教育・研究・職場づくりを進めています。

昨年度のシンポジウムに続き、本年度は社会の多様性に関する理解を深め、無意識のバイアスを排除し適切な配慮のあり方を学ぶため、「ダイバーシティ・セミナー」を全4回シリーズとして開催しました。

全体テーマを「アンコンシャス バイアス（無意識の思い込み）」として、「異文化」「障害」「性(SOGI)」など様々な角度から社会の多様性に焦点を当て、各回のテーマに関する講演や、バイアスを受ける当事者の方々と対談を行いました。

各回いずれも会場開催及びオンライン配信のハイブリッド形式で実施し、全4回を通して参加者は400名を超え、また質問も数多く寄せられ、関心の高さが窺えました。

各回のセミナー概要については次ページ以降をご参照ください。

令和3年度 FD・SD研修

ダイバーシティ・セミナー

「アンコンシャス バイアス（無意識の偏見）」をキーワードに、様々なテーマで多様性について一緒に考えてみませんか？

入場無料

第1回ダイバーシティ・セミナー

10/29(金)
13:15-14:30
共通教育棟D-11

異文化コミュニケーション
～アンステレオタイプと多様性の追求～
講師：池田文佑氏（学術研究部教育学系 准教授）

会場：富山大学五福キャンパス 共通教育棟D-11（全セミナー、Zoomライブ配信あり）
対象：本学教職員・学生・一般
申込：詳細はチラシ裏面かQRコードから →

第2回ダイバーシティ・セミナー ※第2回以降の詳細は、順次お知らせいたします。

11/25(木)
13:15-15:15
共通教育棟D-11

「生まれてこないほうがいい命なんてない」
～ダウン症のある人とその家族の想い～
ゲスト：上原公子氏（日本ダウン症協会富山支部「つなGO」支部長）
ファシリテーター：水内豊和氏（学術研究部教育学系 准教授）

シンポジウム（第3回ダイバーシティ・セミナー）

12/17(金)
13:30-14:45
黒田蔵書ホール

アンコンシャス バイアス
講師：杉本美晴氏（一般社団法人 アンコンシャスバイアス研究所 理事）
※シンポジウムの第1部として実施します。

第4回ダイバーシティ・セミナー

1/28(金)
13:15-14:30
共通教育棟D-11

性(SOGI)の多様性を知る
～多様なSOGIを生きる当事者の方々と共に～
ゲスト：渋谷和泉氏、渋谷伊吹氏
ファシリテーター：林夏生氏（学術研究部人文科学系 准教授）

富山大学ダイバーシティ推進センター（令和2年4月1日に「男女共同参画推進室」より改称しました）
〒930-8555 富山県富山市五福3190 富山大学学生支援 地域連携交流アワー2F
Tel. 076-445-6146 Fax. 076-445-6063 Email: smart@ctg.u-toyama.ac.jp

- 第1回：R3.10.29 異文化コミュニケーション ～アンステレオタイプと多様性の追求～
- 第2回：R3.11.25 「生まれてこないほうがいい命なんてない」～ダウン症のある人とその家族の想い～
- 第3回：R3.12.17 アンコンシャス バイアスについて学ぼう！
- 第4回：R4.1.28 性(SOGI)の多様性を知る ～多様な SOGI を生きる当事者の方々と共に～

R3年

10月29日

第1回ダイバーシティ・セミナー

異文化コミュニケーション

～アンステレオタイプと多様性の追求～

日時：令和3年10月29日（金） 13:15 - 14:30

会場：富山大学五福キャンパス 共通教育棟D-11

（ライブ配信・オンデマンド配信を実施）

当日の参加者：79名（会場11名、Zoom事前申込68名）



第1回ダイバーシティ・セミナーは、本学学術研究部教育学系の池田文佑准教授が講師を務め、「異文化コミュニケーション～アンステレオタイプと多様性の追求～」と題して、ステレオタイプ（固定観念）の成り立ちやその影響など、またアンコンシャス バイアス（無意識の思い込み、偏見）を巡る問題点が解き明かされました。

池田准教授は、多様性を理解するためには、まず「自身が既に何らかのステレオタイプを持っていることを自覚」し、「向き合う相手は多様な側面からできていることへの理解」や「異なる視点で考える」ことが重要だと説きました。また、海外及び日本におけるステレオタイプ排除のための取組みの状況についても紹介しました。

全4回シリーズの導入として、「アンコンシャス バイアス」という概念が生まれるまでの過程を丁寧にお話しいただき、続くセミナーをより深く理解するための助けになるものでした。

新たな視点や気づきを得た参加者からは「初めてアンコンシャス バイアスという言葉を知ったが、今回のお話で、更に興味を覚えた」との声が聞かれました。



富山大学学術研究部教育学系 池田文佑准教授



参加者の声

- 知る努力、受け入れる努力をする必要があると感じた。偏見を改める一つの材料は知識。
- 常日頃目にしている人も多くの側面を持っていて、そういうこともしっかり理解しながら生活していきたいと思いました。
- 少しでも互いが互いに対してやさしい世界になってほしいと強く思います。

R3年

11月25日

第2回ダイバーシティ・セミナー

「生まれてこないほうがいい命なんてない」 ～ダウン症のある人とその家族の想い～

日 時 : 令和3年11月25日(木) 13:15 - 14:55

会 場 : 富山大学五福キャンパス 共通教育棟D-11

(ライブ配信・オンデマンド配信を実施)

当日の参加者: 82名(会場13名、Zoom事前申込69名)



第2回ダイバーシティ・セミナーは、日本ダウン症協会富山支部(つなGO)支部長の上原公子氏をお招きし、本学学術研究部教育学系の水内豊和准教授がファシリテーターを務め、講演及び対談を行いました。

上原氏のご講演ではダウン症のある子をおもちのご家族の想い、出産時から現在までの心情の変化、ダウン症の基本的知識や社会とのつながり、出生前検査・診断の現状などをお話いただき、私たちが無意識に持っている思い込みから生じる負の感情や、それに対する当事者の方々の感じ方が浮き彫りになりました。

続いて、水内准教授から日本での障害の定義や、障害のある方が社会で対峙する「4つのバリア」について身近な例を交えながらご説明いただきました。

対談では、「障害を見るのではなく、その人そのものを見てほしい」、「障害のある方に対して、個人として尊重するマインドを持ちながら接するのが大切」というお話があり、参加者にとっては改めて自身の行動を振り返るきっかけとなったのではないのでしょうか。



日本ダウン症協会富山支部(つなGO) 支部長 上原公子氏(写真右)
富山大学学術研究部教育学系 水内豊和准教授(写真左)



参加者の声

- 告知の際に感じられた様々な思いについては、私の心も非常に揺さぶられるものがありました。
- 当事者やその家族など本人から聞くということ自体あまりない経験であり、教科書やインターネットで知ったり、学んだりすること以上に、私にとって貴重な時間になりました。
- 無意識の偏見は誰にでもあると思うので、相手を理解しようとするのはすごく大切だと考えさせられた。

R3年
12月17日

ダイバーシティ・シンポジウム (第3回ダイバーシティ・セミナー)

あなたにもきっとある！？ アンコンシャス バイアス (無意識の思い込み) について学ぼう！

日時 : 令和3年12月17日 (金) 13:30 - 15:45
会場 : 富山大学五福キャンパス 黒田講堂ホール
(ライブ配信を実施)

当日の参加者 : 143名 (会場32名、Zoom事前申込111名)



本シンポジウムは2部構成で実施し、第1部は第3回ダイバーシティ・セミナーとして全体テーマである「アンコンシャス バイアス (無意識の思い込み)」について、その影響や対処の方法を、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所理事の杉本美晴氏からご講演いただきました。

そもそも「アンコンシャス バイアス」とは何か、ということを実際に感じてもらうために、講師が参加者に様々な質問を投げかけ、リアルタイムでアンケート回答を集計したものを共有し、双方向でコミュニケーションを取りながらセミナーが進んでいきました。参加者の回答が次々にスクリーンに映し出される光景が、正に多様性を象徴しているようで、大変興味深いものでした。

杉本氏は、各人が持つアンコンシャス バイアスが周囲にどのような影響を及ぼすのか、自身の言動に意識を向けながら、決めつけや、押し付けをしないように配慮 (対話) すること、ひとりひとりその時々と向き合うことを大切に、と締めくくりました。

第2部は、富山大学学長賞第5回「未知に挑む女性研究者賞」の表彰式を行いました。詳細は次のページをご覧ください。

「あ！これって私のアンコンシャスバイアスかも？」と思えることは？

周りがやっけるからやる	あの人のように努力はできないから、と、キャリアアップを目指すことをためらってしまう。	60代以上の男性職員は頭が固い、と 思ってしまうこと
理系=頭が良いと思ってしまう	出身大学や専門分野のみで、相手の能力や得意分野を判断してしまう	初めにネガティブな印象をもつと、 そこからなかなか抜けれない
退院レポート作成は若い先生の仕事だ	自分のできる(できた)ことはたんもできる、と思ってしまう	今の若い人は、とか、団塊世代は、と 考えてしまう。
性格や行動について血液型を聞いて 納得している	経歴で決めつけることがある	髪色の薄い人は、怒りやすい
性別や年齢によって特徴などを様々な ことをきめつけてしまっている	自分の過去の経験を若い人たちに いついつかせたくなくなってしまふとき がある。人それぞれ違うのに。	中高年男性は、自分が男だから優遇 されていることに気づいていない、 認めたくないと思っている、と思 う。
今時の若者は...	県民性があるのではないかと思う	人に褒められても素直に喜べないこ とがある (自分を過小評価しがち)



参加者の声

- これまで意識していなかった部分であり、新たな気づきとともに、これからの意識をもって取り組もうと思いました。
- 自分の中にアンコンがあふれていると実感した。一つ一つ考えるべきだと思う。
- 同じものでも一人一人違う、過去の経験や見聞きしたものに影響を受ける。という言葉が心に残っています。

富山大学学長賞

第5回「未知に挑む女性研究者賞」表彰式

富山大学における女性研究者の優れた研究と高い将来性を称えるため、「未知に挑む女性研究者賞」の表彰式が黒田講堂ホールで執り行われました。本賞は、人文・社会科学、芸術ならびに自然科学の各分野において優れた研究成果を挙げ、将来的に国内外で当該研究分野をけん引していく高いリーダーシップが期待される女性研究者を顕彰することにより、女性研究者の研究意欲の向上、学術研究の将来に資する人材育成等を目指すものです。

本年度は女性研究者部門1名、女子学生部門2名、及び奨励賞2名が選ばれ、齋藤学長から表彰状と副賞が贈られました。

女性研究者部門

学術研究部理学系
助教 廣島 渚



研究テーマ

理論的アプローチに基づく暗黒物質の探究

この度、未知に挑む女性研究者賞を頂きましたこと、大変光栄に存じます。私の研究は現代物理学の大問題である暗黒物質の正体解明に挑むものです。シナリオは無限にあり研究手法も多様な中、暗黒物質構造の形成理論や宇宙における観測量からの示唆を基軸にした研究に注力しております。研究の遂行にあたっては先生方・同僚をはじめ、沢山の方々にサポート頂いております。この場をお借りし改めて御礼申し上げます。今後さらなる成果を上げられるよう尽力して参ります。

女子学生部門

理工学教育部ナノ新機能物質科学専攻
博士課程3年 張 叢叢



研究テーマ

ガラスとフレキシブル基盤をベースにした高効率ペロブスカイト太陽電池の研究

この度は「未知に挑む女性研究者賞」を賜り、身に余る光栄に存じます。齋藤滋学長、ならびに関係者の皆様、これまでご指導いただいた岡田裕之教授に心から感謝申し上げます。無機-有機吸収層をベースにした太陽電池は、実験室で高効率を達成しています。今回の受賞を励みに、より実用的なアプリケーションを得るために、いくつかの困難を克服するためにさらに努力します、今後も精進して参ります。

医学薬学教育部薬科学専攻
博士後期課程3年



Amira Abdellatef Ahmed Abdellatef

研究テーマ

がん細胞の Nuclear Factor-kappa B シグナル経路を標的とした天然資源からの抗がん転移薬候補の探索

I am honored to receive the award for the Female Researchers of the University of Toyama for 2021. During my Ph.D. course, my research focused on investigating a novel targeted therapy for breast cancer. Survival of breast cancer patients is relatively good, however if a woman dies from breast cancer, it is mainly due to the widespread metastasis. Accordingly, we proposed to discover active phytomedicine from the medicinal plant *Commiphora Wightii* (Myrrh) to compact breast cancer metastasis. Based on our findings, we isolated two compounds, myrrhanol-A and myrrhanone-A, that showed a strong activity towards the proliferative and metastatic abilities of breast cancer cells. We hope our research may improve breast cancer treatment and boost the anti-metastatic efficacy of other drugs to fight hard-to-treat breast tumor.

Finally, I would like to express my deepest gratitude to the President Prof. Shigeru Saito, all people concerned and Prof. Yoshihiro Hayakawa who allowed me to do this wonderful project and introducing me to cancer research.

奨励賞（女子学生部門）

人間発達科学研究科発達教育専攻
修士課程2年 伊藤 美和



研究テーマ

「親なき後」に関する知的障害者の母親の捉え方に関する研究

この度は「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。これまでたくさんご指導して下さった水内豊和准教授や共に様々な活動を行ってきた水内研究室のゼミ生、そして研究に協力して下さった多くの対象者の方々に心から感謝申し上げます。この受賞を励みに、自分が関わらせていただく支援対象の方にとってより良い支援を検討及び実施していけるよう、今後より一層精進して参りたいと思います。

理工学教育部地球生命環境科学専攻
博士課程3年 片境 紗希



研究テーマ

富山県の陸水動態解析による陸域から沿岸海域への炭素・栄養塩供給量の長期変化の解明～海底地下水湧出に着目して～

この度は「未知に挑む女性研究者賞」奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。齋藤滋学長ならびに関係者の皆様、そしてこれまでご指導いただいた学術研究部張勁教授をはじめ、ご協力いただいた学内外の多くの先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。今後も陸水・海底湧水関連研究のさらなる発展に貢献できるよう、より一層精進して参ります。

R4年
1月28日

第4回ダイバーシティ・セミナー

性(SOGI)の多様性を知る ～多様なSOGIを生きる当事者の方々と共に～

日時：令和4年1月28日(金) 13:15 - 14:30
会場：富山大学五福キャンパス 共通教育棟D-11
(ライブ配信・オンデマンド配信を実施)
当日の参加者：113名(会場12名、Zoom事前申込101名)

令和3年度 FD・SD研修
ダイバーシティ・セミナー
「アンコンシャス バイアス(無意識の偏見)」
をキーワードに、様々なテーマで多様性について
一緒に考えてみませんか?
入場無料
第4回ダイバーシティ・セミナー
性(SOGI)の多様性を知る
～多様なSOGIを生きる当事者の方々と共に～
R4.1月28日(金) 13:15-14:30
会場：富山大学五福キャンパス 共通教育棟D-11
(Zoomライブ配信あり)
対象：本学教職員・学生・一般
申込：詳細や申込はQRコードから
【プログラム】
13:15-13:40 SOGI入門(林夏生)
13:40-14:00 二人のライフストーリー(渋谷和泉氏・渋谷伊吹氏)
14:00-14:30 質疑応答
ゲスト
渋谷伊吹氏 (LGBT・LGBTQ)
渋谷和泉氏 (LGBT・LGBTQ)
林夏生氏 (LGBT・LGBTQ)
富山大学 学術研究部人文科学系 准教授

最終回は1月28日に「性(SOGI)の多様性を知る ～多様なSOGIを生きる当事者の方々と共に～」と題して開催されました。性的マイノリティ(トランスジェンダーとパンセクシュアル*)のカップルである渋谷伊吹さん、渋谷和泉さんをお招きし、学術研究部人文科学系の林夏生准教授がファシリテーターを務め、教職員と学生ら約100名が参加しました。

初めに、SOGI(性的指向・性自認)に関する基礎的知識や国内外の法的整備などの動向について林准教授からのレクチャーがあり、続いてNPO法人で様々な啓発活動をしているゲストの二人から、ご自身の性的指向・性自認にどのように向き合ってきたか、これまで直面した困難やその時の感じ方、昨年富山県内で結婚式を挙げた際のエピソードなどを、ライブストーリーに沿ってお話いただきました。伊吹さんは「みんなにとっての当たり前が難しかった」と振り返り、和泉さんは「すべての人が自分らしくいられる環境のため、共に考えていけたら」と呼びかけました。

最後に具体的な対応などについて活発な質疑応答があり、受講者から様々な感想が寄せられました。

*パンセクシュアル…全性愛者

参加者の声

- 特殊な人のためという考え方を改めて、すべての人に多様な選択の可能性を開くという考え方の方がよいのだと思った。
- 昨今の多様な性に関するニュースなども含めて自分自身の認識のアップデートができたと思います。理解しているようで理解していないことがあることを実感しました。
- 全ての人に幸せになる権利があるという言葉はすごく印象に残りました。



渋谷和泉氏



渋谷伊吹氏



富山大学学術研究部人文科学系
林夏生准教授

Smart Café

ロールモデルによる
部局ミーティング(学生対象)

Smart Caféは、第一線で活躍する富山大学の各部局の研究者から、研究者を志すきっかけや仕事と家庭の両立、海外留学、キャリアパスなどのお話を伺っています。

Smart Café in 医学系

日時：令和3年7月15日(木)
18:00-19:00

会場：富山大学杉谷キャンパス
附属病院2階 臨床講義室1

参加者：85名
(会場64名、Zoom21名)



Smart Café in 医学系

日時：令和4年2月8日(火)
18:00-19:00

会場：富山大学杉谷キャンパス
附属病院2階 臨床講義室1

参加者：104名
(会場71名、Zoom33名)



本学附属病院の第一内科の医師をお招きし、「子育て世代の先輩に聞く ～男女問わず働きやすい職場環境を目指して～」をテーマとして開催しました。

まず、戸邊一之教授、津田玲奈医員、岡澤成祐助教のクロストークから始まり、津田先生は5人の子育てと仕事の両立についての試行錯誤を振り返り、相応の努力、計画的な行動、周囲の支援が必要だとお話してくださいました。岡澤先生は共働き世帯においてワンオペ育児にならないための工夫を、藤坂志帆准教授はご家族を伴って研究留学した際の経験をお話してくださいました。

参加者からは「自分の将来の働き方について具体性を持って想像できた」「学生時代にこのようなことを知るのとはとても大事だと感じた」といった感想が寄せられました。

令和3年度第2回目は、「産休・育休」をテーマに開催しました。附属病院の全診療科を対象に実施した、医師の産休・育休に関するアンケートの結果報告や本学における支援制度の紹介、また女性医師から産休・育休取得時の経験についてお話いただきました。

アンケート結果は、当直・オンコール・休日勤務等の減免の状況や、復帰の時期・復帰後の勤務状況などをグラフ化し、各診療科の方針や配慮について報告しました。

続いて附属病院第二外科の藤井努教授から、第二外科教室における業務改善の工夫を、また第二外科の佐伯しおり先生及び伊藤綾香先生からは取得準備や育休中の過ごし方、復帰についてお話いただきました。性別を問わず関心の高い内容に、多くの参加がありました。

Smart Café in 芸術文化学部

日時：令和3年11月26日(金)
12:10-12:55

会場：富山大学高岡キャンパス
B-212講義室

参加者：26名

本学芸術文化学研究科修士2年の井出温美さんをお招きし、「学びと子育て」というテーマでお話いただきました。

就職活動の話題を皮切りに、様々な社会経験を通して感じたこと、憧れの映像業界での日常や裏話を、社会人学生として、また退職後も子育てと学びの両立を継続していることについて、率直にお話してくださいました。

「人生、何が起るかわからない。いつでも学びなおし、やり直しができる社会になってほしい」という井出さんの言葉は、これから社会に出る学生にとって勇気づけられるものとなりました。



Smart Café Premium

各部局代表と研究者による
部局ミーティング(教員対象)

各部局の代表と研究者らが研究環境の現状や今後必要な取組みについて話し合い、双方の気づきを促し、意識改革を図ることを目的として、部局ミーティングを開催しています。

Smart Café Premium in 経済学部

日時：令和3年9月29日(水)
11:00-12:00
形式：オンライン開催 (Zoom)
参加者：7名

Smart Café Premium in 高岡キャンパス

日時：令和3年12月9日(木)
13:00-14:00
会場：高岡キャンパス 大会議室
参加者：8名

令和3年度学内公募・採択結果について

出産・子育て・介護などのライフイベントと研究との両立や、国際的視野に富む女性研究者を育成することを目的とし、令和3年度の学内公募を行いました。採択結果は以下の通りです。

研究サポーター制度 【対象：性別問わず】 : 7件
 成果公開費助成金 【対象：女性研究者のみ】 : 2件

以下は応募無し。

- ・学会発表時の休日保育利用料補助
- ・国際シンポジウム企画・開催助成
- ・国際学会参加費助成

令和4年度 大学入学共通テスト時の 保育支援について

保育支援の一環として、大学入学共通テスト業務に従事した本学の教職員を対象に保育料の補助を行いました。今年は2名の教職員が利用しました。



富山県・富山市 連携事業

煌めく女性リーダー塾 事務職員2名が参加しました

「煌めく女性リーダー塾」は、県内企業における女性の活躍を一層推進するため、リーダーをめざす女性社員の相互交流と自己研鑽を目的に富山県が主催・企画しています。今年度は第9期生として、病院事務部病院総務課係長の長屋 貴子さんを推薦し、8月から11月にかけて講演会やスキルアップ研修・勉強会にご参加いただきました。

さらに、県は「企業の意味決定にかかわる女性のトップ人材」を育成するため、各企業の女性管理職を対象に経営に関する知識やリーダーシップなどの向上を目的として、「マスターコース」を新設し、本学からは、病院事務部医事課課長補佐の毎田 智春さんを推薦しました。10月から3月にかけて経営戦略やリーダーシップ、生産性向上、プレゼン力など、多角的な研修に参加しました。

お二人の今後のさらなる活躍が期待されます。

このチラシは、「煌めく女性リーダー塾」の概要を説明しています。対象は、県内企業における女性社員の活躍を促進するため、リーダーをめざす女性社員の相互交流と自己研鑽を目的とした研修です。コースには「スキルアップコース」(リーダーシップ、コミュニケーション)と「アクションプランニングコース」(グループワーク、課題解決)があります。費用はそれぞれ6,000円と10,000円です。2021年7月21日(水)に開催予定です。

このチラシは、「煌めく女性リーダー塾 マスターコース」の概要を説明しています。対象は、県内企業における女性管理職の経営に関する知識やリーダーシップなどの向上を目的とした研修です。カリキュラムには、10月22日(木)の「働き方改革」、11月18日(木)の「組織能力」、12月15日(木)の「生産性向上」、1月18日(木)の「経営戦略」、2月9日(木)の「プレゼン力」、3月18日(木)の「成果共有」があります。受講料は15,000円です。講師は清水久子先生です。

受講者コメント

煌めく女性リーダー塾 病院事務部病院総務課係長 長屋 貴子さん

業種は様々ながキャリアを持つ女性の仲間と共に自分を見つめなおす良い機会となりました。特に印象に残ったのは「リフレーミングによりポジティブな発想転換をすること」、「自分勝手でも自己犠牲でもない『自愛』のセンスを磨くこと」で、これからも日々振り返りながら、人生100年時代、前へ向かって一歩ずつ成長していければ良いと思います。

煌めく女性リーダー塾 マスターコース 病院事務部医事課課長補佐 毎田 智春さん

令和3年4月に課長補佐となり、補佐とは何かと模索中、この煌めく女性リーダー塾のマスターコースが開講されました。このコースは、リーダーとして『どのように組織を戦略的に動かすのか』ということを主眼にされており少々難しいところもありますが、かなり勉強になります。また、一般企業の方と共に受講していることもあり、視点の違いや課題問題の捉え方、リーダーとしての考え方など刺激もあります。コロナ禍のためオンラインというのが少々残念ではありますが、3月の修了式を無事迎えられるよう頑張りたいと思います。

富山県

煌めく女性リーダー出前講座 ミライを、キャリアを考える。ホンネトーク

日 時： 令和3年12月1日(水) 4限 (14:45-16:15)
会 場： 富山大学五福キャンパス 共通教育棟 C 棟 1階 C-13 教室
ファシリテーター： 北日本放送株式会社 報道制作局次長兼報道制作部長 平島 亜由美氏
パネリスト： 三協立山株式会社サステナビリティ推進部 企画課長 三辺 咲子氏
立山科学グループ立山マシン(株)SFA事業部 営業技術部 主任 馬場 恭子氏
参 加 者： 12名

学生の早期キャリア形成支援として、県内企業で働く女性管理職のロールモデルと参加学生との交流により、キャリアに対する意識付けや、仕事と家庭の両立について考えることを目的として開催しました。



富山県

未来を描くライフデザイン応援出前講座

日 時： 令和3年12月7日(火) 2限 (10:30-12:00)
会 場： 富山大学五福キャンパス 共通教育棟 A 棟 23 教室
講 師： NPO 法人ファザーリングジャパン顧問、
大阪教育大学 教授 小崎恭弘氏
参 加 者： 30名

豊かな男女共同参画社会の実現に向け、「女性活躍推進と働き方改革」が求められる中での将来のキャリア・デザインについて学ぶことを目的とし、人間発達科学部藤本孝子准教授の「家庭 B」の授業において開催しました。



富山市

男女共同参画サテライト講座

日 時： 令和4年1月24日(月) 2限 (10:30-12:00)
会 場： 富山大学五福キャンパス 共通教育棟 C 棟 22 教室
講 師： 一般財団法人女性労働協会 山田理子氏
参 加 者： 134名

「女性活躍推進時代のキャリア・デザイン」をテーマに、多様な働き方が可能な社会を目指すため、労働市場と社会状況の変遷について講師からご講演いただきました。人文学部佐藤 裕教授の「教養教育ジェンダー」授業において開催しました。



男性の育児休業取得について

男性の育休取得率について、政府は2025年までに「30%」達成を目標に掲げていますが、男性育児休業取得率は令和元年度7.48%、令和2年度12.65%（参照元：厚生労働省 令和2年度雇用均等基本調査）と上昇傾向にあるものの、まだまだ低い状況にあります。

富山大学 育児休業 Q&A

Q1：どのくらいの期間取得できますか？

A1：育児休業開始予定日から、子どもが満3歳に達する日（誕生日の前日）までの必要な期間取得できます。（「国立大学法人富山大学職員の育児休業等に関する規則」参照）

Q2：配偶者が専業主婦でも取得できますか？

A2：配偶者が専業主婦の場合も育児休業を取得することができます。

Q3：育児休業のほか、出産・育児において利用できる制度はどんなものがありますか？

A3：「富山大学における 出産・育児・介護支援制度 一覧」をご参照ください。

<http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/R3shienseido-toyama-uni.pdf>

育児短時間勤務、保育休暇、子の看護休暇など、様々な制度があります。雇用・給与形態によって利用できる制度が一部異なりますので、必ず規則を確認の上、所属部局の事務担当にご確認ください。

富山大学 男性の育児休業取得者インタビュー

令和3年6月に「育児・介護休業法」が改正され、令和4年4月から段階的に施行されます。事業主は男女とも仕事と育児を両立できるように、産後パパ育休制度（出生時育児休業制度）の創設や雇用環境整備、個別周知・意向確認の措置の義務化などに取り組むこととなります。そこで、男性の育児休業取得促進、男性の意識改革、職場の理解促進につなげるため、本学の男性の育児休業取得経験者の経験談をご紹介します。

人文学部 准教授 野澤 豊一先生

■育児休業を取得してよかったこと・大変だったことは？

私が育休を取ったのは、次男（第二子）が生まれて約半年がたって妻の育休があげた後の、約半年間です。我が家は共働き、しかも妻が単身赴任という事情があったので、実は次男が生まれる前も平日を中心に長男と二人暮らしをしていた時期が半年ほどありました。いちばん大変だったと思いだされるのは、食事を食べさせること。特に長男はご飯やおかずをあちこちに投げつけずにいられなかったので、毎回新聞紙を床に敷き詰めて食事に臨まなければなりません。あと、夜泣きや夜のオムツ替えなどで寝不足になるのも辛かったです。



■仕事の調整はどうされましたか？

私の場合、同じ研究室の先生の理解があったことと、芸文の先生に調査実習の授業をお願いできたことが何よりも大きかったです。教育面はそれで何とかりましたが、育休に入るまでに片づけられなかった依頼原稿にはかなり悩まされました。子供が昼寝しているあいだに本を読んだり、土日に妻や県内に住むお互いの両親に頼って喫茶店で原稿を書いたりしました。育休明けの授業準備にもこうした時間を利用しました。おかげで今はあちこちに頭が上がりません。

■仕事復帰された後に、変化した考え方・価値観などありますか？

妻と私は仕事も同じくらい忙しくて、家事もほぼ半々で分担しています。それが子育てとなると、フィフティ・フィフティにはなかなかならない。お産や授乳は男性にはできません。その事実で甘えてしまって、夜中にオムツを替えたり夜泣きする子どもを抱っこであやしたりということも、つい「母親」に任せがちになります。家庭内での男女のあいだにあるこうした不均衡に、子どもたちとの密着した日々のなかで気づけたことが、私にとっては最も大事な価値観の変化でした。

研究振興課 課長補佐 日水 栄さん

私が妻の出産直後2週間の育児休業を取得したのは、令和2年5月でした。沐浴、寝かしつけ、おむつの交換などの育児と、家事全般に取り組みました。

■育児休業を取得してよかったこと・大変だったことは？

よかったことは、これから続く育児の道のスタートラインに妻と一緒に立てたことです。二人で力を合わせて歩いていけると、希望と強い気持ちを持つことができました。

結婚披露宴で主賓から「仕事より家庭が大事だと堂々と言える男になれ」と言われ、以来そうありたいと考えてきました。育休取得と復帰後の生活でそれが実践できていることで、自分に自信が持てるようになったと感じています。

復帰後も家庭を優先しようとする中で、限られた仕事時間内に成果を出す必要に迫られ、結果として業務の見直しや改善が進んだと思います。

大変だったことは、育休中も頭が仕事から完全には離れられなかったことです。気になって夜に仕事のメールをチェックしていました。

■仕事復帰された後に、変化した考え方・価値観などありますか？

人生において何が大切かという価値観が変わったと思います。「社会をつくるのが人であるならば、未来の社会をつくるこの子は未来そのものだ」と気づきました。そして育児には、自分が仕事を通じて社会に貢献するのと同じかそれ以上に、すばらしい意味があるのではないかと考えるようになりました。現実には毎日睡眠不足で両立は大変ですが……。



■これから育休の取得を考えている人にメッセージをお願いします。

出産前から今に至るまで、大好きなこの子と妻と一緒にいられる時間が楽しいと、素直に感じています。周囲への感謝の気持ちを忘れず、日々成長していく子を夫婦で見守ることができる幸せを感じながら、親として人として成長していけたらと思います。

育休を検討している方がいたら、堂々と取得してほしいです。私も事務系男性職員最初の取得者として、取得しやすい職場の雰囲気づくりなどに貢献していきたいです。

センター長 ご挨拶



富山大学ダイバーシティ推進センター長 小野 直子

令和3(2021)年4月にダイバーシティ推進センター長を拝命いたしました。富山大学では、平成20(2008)年7月に男女共同参画推進室が設置され、令和2(2020)年4月にダイバーシティ推進センターとして発展的に改組されました。これまでのジェンダー平等に加えて、性別、性的指向と性自認、障がいの有無、年齢、文化、宗教、信条、国籍などの多様性を尊重し、それぞれが自らの能力を発揮し、皆が生き生きと活躍できる教育・研究・職場環境づくりを進めています。

ダイバーシティとは、もともとアメリカ合衆国において1960年代の差別撤廃運動の中で、人種、肌の色、宗教、性、国籍にかかわらず雇用機会均等を実現するために広がった概念です。その後、障害、性的指向、性自認などの所謂マイノリティすべてを含めた多様化を求める思想として語られるようになり、社会の在り方を示すより包括的な概念となっていきます。1990年代になると、ダイバーシティ推進をビジネスとしての合理性の追求として普及する動きが起こり、現在では、組織の中に違いがあるからこそそれが力になるのであり、持続的発展のためにはダイバーシティ&インクルージョンが不可欠である、という考え方がアメリカの企業では共通認識になっています。

日本においても、2000年代以降ダイバーシティの議論が行われるようになりました。日本では、将来的な少子高齢化による労働力人口の減少等に対応した人材確保の観点から、ダイバーシティ推進に取り組む企業が増加しており、その動きが他分野にも影響を及ぼしています。大学でも、組織全体の成長・発展を推進することを目指して、ダイバーシティ推進に取り組んでいます。

しかし、ダイバーシティ推進の本質的な観点は、人権です。より良い組織、そしてより良い社会を構築するためには、すべての人々の権利を尊重するという意識が必要です。大学は重要な雇用組織として、他の雇用組織に対しても、人権と多様性の尊重という社会的価値の推進者としての役割を果たすことが求められています。また教育機関として、次世代を担う学生たちに対して、人権や多様性が尊重される社会のモデルを示すことが求められています。本学のさらなるダイバーシティ推進に向けて、皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）[実施期間:平成27-令和2年度] 事後評価結果について

令和4年3月10日に科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の事後評価結果が発表されました。

評価結果(抜粋)

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

本学の評価結果は、総合評価A(所期の計画と同等の取組が行われている)です。目標達成度はb評価ながらも、取組、取組の成果、実施体制、実施期間終了後の取組の継続性・発展性はいずれもa評価を得ました。評価コメントを真摯に受け止め、今後も引き続き女性研究者支援活動に取り組んでまいります。

(※詳細はこちら。国立研究開発法人科学技術振興機構HP https://www.jst.go.jp/shincho/josei_shien/kikan/h27.html)

編集後記

今号では、特集記事として男性の育児休業取得を取り上げました。この記事企画するなかで、編集メンバー一同、男性の育児休業取得について、認識を新たにすることができました。皆さまにもこの記事がお役に立ちましたら嬉しく思います。

富山大学ダイバーシティ推進センター News Letter 編集メンバー
小田 夕香理 森嶋 秀紀 片桐 達雄 保田 俊行 今井 美恵子
南 和江 竹岡 美樹 甲斐田 直

富山大学 ダイバーシティ推進センター

〒930-8555 富山市五福3190
TEL: 076-445-6146
E-mail: smart@ctg.u-toyama.ac.jp
HP: <http://www3.u-toyama.ac.jp/danjo/>

